

生体調節研究所
共同利用・共同研究拠点セミナー

エクソソームが切り拓くがん研究の新展開
～エクソソームによるがんの治療・診断の
未来～

小坂 展慶 先生

国立がん研究センター研究所・分子細胞治療研究分野・研究員

【日時】 2014年1月20日(月) 午後5時～6時

【場所】 生体調節研究所 1階 会議室

マイクロRNAは、発生や器官形成、恒常性維持など様々な生理現象に関わる小分子非翻訳RNAである。そのためマイクロRNAの発現異常は疾患につながる。特にがんにおいては多くのマイクロRNAの発現異常が報告されていることから、マイクロRNAを標的としたがんの診断法や治療法が試みられている。その一方で、マイクロRNAが細胞外に存在することが発見され注目を集めている。この細胞外に放出される分泌型マイクロRNAは、エクソソームと呼ばれるナノサイズの細胞外分泌顆粒中に存在しているため、多くの消化酵素が存在する体液中でも安定に循環できる。本講演ではマイクロRNAを運ぶエクソソームによる細胞間コミュニケーションと、エクソソームを用いた疾患に対するがん診断・がん治療への挑戦を紹介する。